

みらいだより

令和4年12月1日



早いもので、今年も残すところ1か月となりました。木の葉も散り、日増しに寒さが加わり駆け足で冬がやってきそうです。11月の子どもたちは、いも掘り、散歩で秋の自然を身体に感じながら生き生きと遊びをすすめ、多くのことを学んでいます。

12月になると、子どもたちは、焼き芋会、もちつき、クリスマスなどわくわくする行事に参加します。

12月		
日	曜	行事予定
7	水	焼き芋会
10	土	保護者交流会(たけのこ) 弁当日
15	木	PR活動「警察署連携」西区福祉センター (ひかり)
17	土	もちつき会
20	水	もちつき会(予備日)
21	水	身体測定(どんぐり・たけのこ・ひかり)
22	木	身体測定(りす・うさぎ・そら)
23	金	クリスマス会
24	土	弁当日
29	木	保育納め
1/5	木	保育始め

※変更の場合あり

「砂は最良のエデュケーター（教育者）」

これは、昔からドイツに伝わる言葉です。

砂遊びで心・体・社会性が育ちます。

五感(視覚・触覚)が鍛えられることで、安心感・自己肯定感・落ち着きが得られます。

砂の上を歩くことで筋力や体幹が鍛えられます。手指の巧緻性(細かな動き)が育ちます。

参考文献:「砂・砂・砂」:同志社大学 笠間浩幸



新しい時代は子どもから 全私保連保育運動

- ① 子どもの思いを受け止めましょう
- ② 子どもの「遊び」を守りましょう
- ③ 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- ④ 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
- ⑤ 子ども同士の関わりが大切です
- ⑥ みんなで食べると美味しいんです
- ⑦ 子どもは自然が大好きです

※「7つのメッセージ」は、子どもを真ん中にした社会を創っていくために、いつも大切にしたいことを表しています。

子ども自身に乗り越える力

「乗り越える力」はどこから生まれるのでしょうか。何かの壁にぶつかったときに乗り越える力となるのは、自分を信じる力です。自己肯定感とも言います。

私たち大人は、どんな時も子どもを否定せず、味方であること、応援団であることが、子ども自身の「乗り越える力」となると信じています。





どんぐり(0歳児) 「動物になりきって」

「キャンキャン」ひとりが犬の鳴き声をまねしたら「わんわんわーん」「にゃーにゃー」と周りの子が続いています。日常生活や遊びの中で出会ったいろいろな動物の鳴き声を覚えてまねしているんですね。

たけのこ(1歳児) 「畑の中には」

おいもほりでとってきたいもを並べて「こっちはちっちゃいね」「これおおきい」「これは?」「あながある」形や色、感触、匂い…いろいろなものを触ることで感覚が発達し、そのとき感じたことを表現するようになっていきます。



りす(2歳児) 「それ～」

みて～、葉っぱがいっぱい、ふわふわしてるよ」「それ～」「おもしろい」「あつめてあつめて」「それ～」「きもちいい」葉っぱの感触を確かめるように踏んだり、上に投げあげて身体全体で落ち葉の感触を何度も繰り返し楽しんでいました。

うさぎ(3歳児) 「ロビン1号」

『わんぱくだん』の絵本に出てくる「ロビン1号」の製作で「顔にしよう」「手と足がついとるよ」「ハートがあった」「耳もつけたい」「目はこれがいい」「色もついとった」一人ひとりがイメージを膨らませながら友だちと一緒に協力して作成しています。



そら(4歳児) 「なみ」

波との追いかっこが始まりました。寄せたり返したりする波に合わせて前にいったりうしろにさがったり。「わあ～ぬれちゃった～」慣れてくると、波が来るぎりぎりまで逃げない大胆な作戦も。身近な自然と関わっています。

ひかり(5歳児) 「野菜の根っこ」

「うわっ、かたい」「うじゃうじゃになっとる」「なすびのねっこもかたいな～」「かちかちじゃね」「掘ったらとれるかね」「こっち掘るけ引っ張ってね」自然や身近な環境との関わりのなかで、不思議さを感じながら好奇心や探究心を持ち気付きや考えを友だちと話し協力しています。

